

〔創造部門〕

1. 氏名 小泉 和裕 (指揮者)
2. 年齢 71歳 ※R3.1.6現在
3. 住所 東京都



©Ivan Maly

【経歴及び選考理由】

昭和44年、東京芸術大学指揮科に入学、山田一雄氏に師事。昭和45年、第2回民音国際指揮者コンクール第1位受賞。昭和47年、ベルリンのホッホシューレに入学し、ラーベンシュタイン教授にオペラ指揮法を師事。昭和48年、第3回カラヤン国際指揮者コンクールに第1位入賞。その後、ベルリン・フィルを指揮してベルリン・デビューを飾った。

昭和50年から昭和54年、新日本フィル音楽監督を務める傍ら、昭和50年、ベルリン・フィル定期演奏会に登場。昭和51年には、フランス国立放送管を指揮してルーベンシュタインやロストロポーヴィチとも協演し、同年のザルツブルク音楽祭でウィーン・フィルを指揮(当時の最年少記録)。その後も、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響等、ヨーロッパ各地で精力的な指揮活動を行った。また、アメリカにおいても、昭和53年、ラヴィニア音楽祭でシカゴ交響楽団を指揮し大成功を収めた後、昭和55年、シカゴ響定期公演に登場し注目を集めた。その他、ボストン響をはじめ北米のメジャー・オーケストラに次々と客演。また、ロンドンのロイヤル・フィルには昭和63年から定期的に招かれ、数々の名演を残すとともにチャイコフスキーの交響曲第4、5、6番のディスクを完成させた。

九州交響楽団との音楽活動には、昭和52年開催の九州交響楽団第63回定期演奏会を皮切りに40年以上の長きにわたって携わっており、首席客演指揮者、首席指揮者を経て、現在は音楽監督を務める。同楽団の本拠地である末永文化センターの設立に力を注ぐとともに、平成30年度のマラー「千人の交響曲」をはじめとした数多くの歴史的公演で指揮するなど、氏と同楽団の共演は主催公演だけでも100回を超えており、同楽団の実力を飛躍的に向上させ、その絆はますます深いものとなっている。音楽監督9年目となる令和3年も数々の公演に登場を予定しており、同年12月には第400回定期で九響合唱団とともにブラームスの大曲「ドイツ・レクイエム」を指揮する。

さらに、国内の複数の交響楽団においても音楽監督や指揮を務めるなど、国内の主要オーケストラの指導・育成に尽力されている。

このように、氏は、オーケストラの指揮を通じたクラシック音楽の普及活動により、多くの人々にクラシック音楽の魅力と素晴らしさを提供し、福岡県のみならず国内外の音楽文化及び県民文化の向上・発展に大きく貢献している。



演奏中の小泉氏 ©勝村 祐紀

<主な在任歴>

- ・新日本フィルハーモニー交響楽団 (音楽監督: S50年~S54年)
- ・ウィニペグ交響楽団 (カナダ) (音楽監督: S58年~H元年)
- ・九州交響楽団
(首席指揮者: H元年~H8年、音楽監督: H25年~)
- ・日本センチュリー交響楽団(旧大阪センチュリー交響楽団)
(首席客演指揮者: H4年~H7年、首席指揮者: H15年~H20年、音楽監督: H20年~H25年)
- ・東京都交響楽団
(首席指揮者: H7年~H10年、首席客演指揮者: H10年~H20年、レジデント・コンダクター: H20年~H25年、終身名誉指揮者: H26年~)
- ・仙台フィルハーモニー管弦楽団 (首席客演指揮者: H18年~H30年)
- ・神奈川フィルハーモニー管弦楽団 (特別客演指揮者: H26年~)
- ・名古屋フィルハーモニー交響楽団 (音楽監督: H28年~)

(参考) 創造部門: 個性的、創造的な文化活動を行い、優れた業績を残し、県民文化の向上、発展に貢献したもの